市民を愛する　市民に愛される病院へ

# 荒尾市民病院～地域連携室だより～ 小岱

第１２号（平成２１年６月発行）

〒864-0041　熊本県荒尾市荒尾２６００
荒尾市民病院
相談支援センター　地域医療連携室
TEL　0968-63-1115（代表）
FAX　0968-62-4543
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　www.hospital.arao.kumamoto.jp/
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　bsn@hospital.arao.kumamoto.jp

## ご挨拶

病院事業管理者　大嶋壽海

新緑の芽生えがまぶしい、さわやかな季節となりました。日頃より、本院との地域医療連携に対し、ご支援ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

さて、平成19年12月、総務省は「公立病院改革ガイドライン」を提示し、公的病院が地域において必要な医療を安定的かつ継続的に提供していくための改革プランを20年度末までに策定する事を義務付けました。このガイドラインは、①経営の効率化、②再編ネットワーク、③経営形態の見直し、という3つの視点にたって構成されています。これらにのっとり本院は、「荒尾市民病院中期経営計画」を昨年度策定し、今年の4月1日より「全部適用」へ経営形態を変更致しました。

全適移行による大きな違いは、病院トップに「事業管理者」を設置し、管理者が経営に必要な「人・金・物」に関する全ての権限を掌理と同時に経営責任を負うということです。メリットとしては、①経営責任の明確化②機動性、迅速性の発揮③自律性の拡大④職員の経営意識の向上⑤業績に応じた給与体系の導入等が挙げられています。本院が、地域において必要とされる病院として果たす役割を明確にした上で、安定した経営の下で良質な医療を継続して提供できる病院をつくりあげていく必要があります。その為には、皆様との地域医療連携の輪が大きなキーポイントとなります。今後とも、地域医療連携を発展させ、地域完結型医療の実現に向けて努力していく所存です。

また、この4月より3名の常勤医（救急医、形成外科医、外科医）の増員があり、今年度の常勤医は31名となっています。救急医の採用に伴い救急科を創設し、救急医療の充実を図っています。16列CTを救急外来に設置し、急患に対する迅速性、安全性の強化を図り、さらに、最新の64列CTも導入し心血管系の診断に有効活用しております。2台の最新型CTの導入は、地域医療に大いに貢献できるものと思います。ぜひ皆様の共同利用をよろしくお願いいたします。

去る5月８日には、平成21年度荒尾市民病院主催地域医療連携懇親会を開催いたしましたが、皆様に支えられ11回目を迎えることができ、うれしく思っております。おかげさまで、20年度の紹介率５５．４%、逆紹介率６４．９%で、地域医療支援病院の承認規定をクリアーでき、4月早々に県に書類を提出したところです。これも皆様方との日頃の地域医療連携の賜物と感じているところです。今後とも荒尾市民病院へのご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

# 荒尾市民病院　新着情報

4月より9名（研修医を含む）の新任医師を迎えました。退任の医師が5名で、常勤医が3名増となり、診療科も救急科、形成外科を新設、外来部門では緩和ケア外来、禁煙外来を開始いたしました。医療機器では、64列マルチディテクターCTを導入し、診療技術の向上に努めております。新しく市民病院のキャッチフレーズとして、「市民を愛する　市民に愛される病院へ」を制定しました。皆様方との連携を深め、地域住民の皆様方の健康維持・増進に寄与できるよう職員一丸となって努力していきます。今後ともよろしくお願いいたします。

## 緩和ケア外来の紹介

消火器病センター部長兼疼痛緩和内科部長　濵口　裕光

当院では平成7年に熊本県内の他の病院に先駆けて緩和ケアチームを発足させ、一般病棟での緩和ケアの充実に取り組んでいますが、4月から新たに「緩和ケア外来」を開設しました。WHO（世界保健機構）では緩和ケアは、がんと診断がついた早い時期から提供するものであると定義しており、がんの痛みをはじめとした、身体的・精神的・社会的問題に対処するため、がん治療と平行して行うものです。この地域のがん患者さん・家族の皆様の様々問題の解決をし、安心してがん闘病生活が送れるようサポートします。お気軽に当院の「相談支援センター」にご相談ください。

## 禁煙外来の紹介

健康管理センター長　鶴田　敬一郎

当院では、4月から禁煙外来が始まりました。診察日は、毎週水曜日の午後で完全予約制となっています。また、毎週金曜日14時～15時に健康管理センターにおきまして「喫煙の害と禁煙の方法」と題した講和を予定しております。予約と相談は、総合受付（医事課）で対応いたします。

## 救急科の紹介

救急科部長兼ICU部長　松園　幸雄

当院では、4月から新たに「救急科」を開設し救急医療機能の強化を図りました。今後は、熊本県城北地域における「新型救命救急センター」の指定を目指し、この地域の1．5～2．5次救急体制を、当院を中心に整えていきたいと考えています。

### ［救急科担当医（新任）の紹介］

松園　幸雅（まつぞの　ゆきまさ）
救急科部長兼ICU部長
熊本大学医学部　平成2年卒
前任地：山梨県立中央病院救急救命センター

専門：日本救急医学会指導医／専門医、日本外科学会専門医、日本熱傷学会専門医
AHA（アメリカ心臓協会）認定BLS／ACLSインストラクター
日本救急医学会ICLSディレクター、JPTAEC／JATECインストラクター
所属学会：日本救急医学会、日本臨床救急医学会、日本外傷学会、日本熱傷外来
日本中毒学会、日本集中治療学会、日本外科学会、日本腹部救急医学会
抱負：荒尾市および有明地域のプレホスピタルから、救急医療体制までその充実と発展のために頑張るつもりです。末永くどうぞ宜しくお願い致します。

# 新規導入機種の紹介
# 64列マルチディテクターCT

当院では本年6月から64列マルチディテクターCT(multidetector-row CT; MDCT)を導入致します。MDCTとは体軸方向に多列の検出装置を備えたCT装置であり、64列MDCTは特に短時間の撮像で安定して高画質の情報が得られ、さらに低侵襲であることから、特に冠動脈の画像診断に有用です。県北地区の医療施設では当院が最初の導入施設となります。

従来、虚血性心疾患のスクリーニングとして運動負荷心電図、ドブタミン負荷心エコー、負荷心筋シンチ等が行われてきましたが、それぞれ精度、コスト、危険性などに問題があり、より安価で精度の高いスクリーニング検査の登場が待ち望まれてきました。64列MDCTはより高い精度で冠動脈の狭窄病変を診断する事が可能であり、近年日常診療で広く用いられるようになっています。その利点は低侵襲であり、侵襲的冠動脈造影検査と比較しても冠動脈狭窄についてほぼ同等の診断能があるとされ、さらに冠動脈狭窄のみならずプラークの評価が可能で、閉塞血管の描出などで冠動脈造影検査と比較して勝っている点も多いとされています。

これまで虚血性心疾患の診断には、冠動脈造影検査を必要とする事が多く、入院が必要でした。64列MDCTによって外来で手軽に冠動脈評価が可能となります。これは時間的、金銭的にも患者様にとって非常に有利であります。また冠動脈造影では30分から1時間程度の所要時間が必要で、侵襲を伴い、合併症のリスクも存在した訳ですが、64列MDCTでは撮像時間は5－6秒しかかからずに、安価で非常に安全です。

特にこれまで虚血性心疾患の疑いがあるものの、仕事が忙しく入院が不能だったため精査が出来なかった現役世代や、入院が困難な高齢者、認知症患者等に対して外来で手軽に、安全に精細な冠動脈評価が可能です。また糖尿病や透析患者で冠動脈疾患のハイリスク患者のスクリーニング検査として非常に有用です。

当院では64列MDCTの導入を期に、ますます県北地区の循環器治療を充実させて行きたいと考えておりますので、虚血性心疾患を疑う患者、また精査を希望される患者がおられましたらぜひとも当院に御紹介いただければ幸いです。

内科副診療部長兼循環器内科部長　梶原一郎

当院では平成21年5月に新しく2台のPHILIPS社製マルチスライスCT（以下MDCTと記載）を設置します。1台は救急外来に16列のMDCT、もう一台は既存の16列MDCTの更新として64列のMDCTを設置します。

救急外来にCTを設置する事により、患者様の移動距離が大幅に短縮され、移動中の病状の急変等リスクを回避する事ができ、特に重篤な患者様の負担軽減となります。更にスピーディな検査により診断結果の短縮、迅速な救急処置が可能となります。また64列CTの導入により、16列CTより更に詳細な画像診断と高速撮影による検査時間の短縮が可能になります。

これはCTの検出器の幅が24㎜から40㎜となるため患者様の息止めの時間が3分の2に短縮されます。例えば胸部から腹部骨盤まで撮影する場合16列CTでは約20秒の撮影時間ですが、64列CTでは12秒の息止めで可能になります。特に64列CTの利点は心臓検査解析ソフトの開発により、息止めしても動いている心臓を静止画像として描出することが出来る点であり、循環器疾患の患者様の冠動脈の検査に非常に有用であります。

副放射線技師長　堺　峰崇

# 第11回　荒尾市民病院主催　地域医療連携懇親会報告

平成21年5月8日（金）19時～荒尾市民病院主催の地域医療連携懇親会をホテルヴェルデ に於いて開催いたしました。今年は、過去最高の237名（内荒尾市民病院職員77名）の方に参加していただきました（昨年の参加者187名）。参加者は、院外の参加者が160名で、荒尾市・玉名郡市・大牟田市の医療機関の先生や職員の方々と、介護施設・訪問看護ステーションなどの福祉関係の職員の方々、職種は、医師・看護師・PT・OT・ME・ケアマネジャー・MSW・PSW・事務職など多くの関係者にご出席いただき、大変有意義な情報交換が出来、交流を深めることができたのではないかと思います。

大変お忙しい中懇親会に多数ご参加いただき誠にありがとうございました。この場をかりて厚く御礼申し上げます。

荒尾市医師会会長
高橋　洋　　先生

玉名郡市医師会会長
田尻　守正　先生

大牟田市医師会会長
蓮澤　浩明　先生

講演「インフルエンザの脅威！？」
荒尾市民病院
救急科部長兼ICU部長
松園　幸雅

新任医師紹介

会場の様子

## 相談支援センターより

センター長（副院長）不破、看護師（室長）1名、社会福祉士2名、精神保健福祉士1名、事務員1名の体制より理学療法士1名（兼務）、事務員1名を増員し、新体制をスタートしました。今後も利用しやすい相談支援センターを目指して努力して参ります。よろしくお願い申し上げます。

＜相談支援センタースタッフ＞

センター長（副院長）　不破　功
室長（看護師）　村上　裕子
主任（理学療法士）　宮川　剛
社会福祉士　湯藤　陽子　　江口　美和子
精神保健福祉士　斉木　ゆかり
事務員　久保田　美穂　　濵本　菜穂子

## 編集後記

４月より相談支援センターで勤務しております理学療法士の宮川と申します。荒尾生まれの荒尾育ちです。午前中はリハビリ診療、午後は相談支援センター勤務となっています。また、糖尿病療養指導士として、糖尿病教育入院や糖尿病教室にも携わっています。経験不足で皆様方にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、地域住民の皆様方の健康維持・増進、QOLの向上にに寄与できるよう頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

相談支援センター　宮川　剛